２０２１年度　大学入学共通テスト【第２日程(1 月 30 日・31 日)】

地理Ｂ[分析]

第１日程と同様に図表の読み取り問題が多いが、判断に悩む問題が少なく難易度はやや易である

思考力や判断力を要する問題が少なかった。

難易度（【第１日程(1 月 16 日・17 日)】との比較）

やや易

第 1 日程と比べてマーク数が減り、思考力や判断力を要する問題が少なかった。

出題分量（【第１日程(1 月 16 日・17 日)】との比較）

大問数と小問数は同じだが、マーク数が 2 つ減って 32 から 30 となった。

出題傾向分析（【第１日程(1 月 16 日・17 日)】との比較）

系統地理的考察の分野から、自然環境が 1 題、産業が 1 題、人口と村落・都市が 1 題、地誌的考察の分野から西アジアが 1 題、地図と地理的技能の分野から、地域調査が 1 題出題された。地理 B のほぼ全分野からまんべんなく出題されている。センター試験に比べて基本的な知識を踏まえて、統計表、統計地図、グラフ、地形図などの複数の図表を読み取る問題が多くなっているのは第 1 日程と同じである。

2021 年度【第２日程(1 月 30 日・31 日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第１問	世界の自然環境と災害	20	6
第２問	産業と貿易	20	6
第３問	人口と村落・都市	20	6
第４問	西アジア	20	6
第５問	福岡とその周辺の地域調査	20	6
合計		100	30

2021 年度【第１日程(1 月 16 日・17 日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第１問	世界の自然環境	20	7
第２問	産業	20	6
第３問	都市と人口	20	6
第４問	アメリカ合衆国	20	7
第５問	宮津市の地域調査	20	6
合計		100	32

設問別分析

第１問

A では土砂災害と世界の山脈、降雨と土砂災害との関係、黄河における流域の人間の営みと土砂の流出、世界の森林の粗密、森林の炭素量の植物と土壌が占める割合、B ではカナダの森林火災について出題された。第 1 日程の第 1 問と比べると判断に悩む問題は少なかった。

第２問

日本の都道府県の人口と農林業・製造業・小売業の産業別就業人口、市場からの距離と農業地域の形成の仮想モデル、東日本の 14 都県における東京からの距離と農地面積当たり収益（田・畑・樹園地）、世界各地の産業の立地、1 人当たり GDP（国内総生産）と輸出依存度、アメリカ合衆国・韓国・中国からの訪日観光客数と 1 人当たり旅行消費額およびその内訳について出題された。市場からの距離と農業地域の仮想モデルに関する問 2 は第 1 日程で出題されたウェーバーの立地モデルに類似した問題であった。

第３問

4 か国における老年人口率の上昇速度の違い、3 か国の女性の労働力率、円村（景観写真）の分布地域と形態の利点、3 か国の都市人口率の推移と社会・経済的な状況、大都市における移動手段と出勤目的の移動者数が多い地区、県庁所在都市の公立中学校・コンビニエンスストア・ビジネスホテルの分布について出題された。問 2 の女性の労働力率に関する問題は、アメリカ合衆国とフィンランドの違いがわかりにくく判断に悩む。

第４問

A では 4 地点の 1 月と 7 月の平均気温と月降水量の差、水資源の確保に関する景観写真、西アジア諸国の 1 人当たり GNI と 1 日当たり原油生産量、アラブ首長国連邦のドバイにおける人口推移と人口ピラミッド、B ではモロッコとトルコの 1 人当たり年間供給食料（豚肉・ナツメヤシ）、モロッコとトルコのヨーロッパへの人口移動と難民受入数について出題された。B の小問 2 つはモロッコとトルコの比較地誌であった。

第５問

景観写真の撮影方向、人口集中地区の分布と福岡市への通勤・通学率、福岡市の産業、都市の景観写真と人口増加率・老年人口増加率、地理院地図の読み取り、福岡市からみた日本の人口移動について出題された。問 4 の老年人口増加率は、始発駅から最も遠い L ではもともと老年人口率が高いため増加率は低くなる。
地理 A 第 5 問と共通問題

過去平均点の推移

21 年度※ 【第１日程】 (1 月 16 日・17 日)	20 年度	19 年度	18 年度	17 年度
60.1	66.4	62.0	68.0	62.3

※2021 年度の平均点は 1/22 大学入試センター発表の中間集計その２の平均点です。